



志村伊豆守

【長谷堂合戦図屏風】

〔江戸中期〕(複製) 最上義光歴史館蔵

右隻は長谷堂城の攻防を題材にしており、右手に長谷堂城主の志村伊豆守の出陣姿、左手に上杉家家老直江兼統が描かれています。左隻は、関ヶ原での西軍敗戦の報を受け退却する上杉軍への最上軍の追撃戦を題材にしており、中央に鉄の指揮棒をふるって猛迫する最上義光、左手に鉄砲隊に守られた直江兼統が描かれています。

上杉軍 侵攻経路

上杉軍は、直江兼統の本拠の米沢方面のほか、当時上杉領だった庄内方面からも最上領目指して侵攻しました。対して最上義光は支城の多くで明け逃げを行い、戦力を集中させています。明け逃げとは、城を放棄して人的損失を少なくするとともに、村落や耕作地を荒らされるのを防ぐ方法です。



サクラの古木

全域にカスミザクラやシダレザクラ・ソメイヨシノの古木がみられます。特に山頂広場の南斜面にある、春日神社前のシダレザクラは優雅に咲き誇ります。



シヤガ群落

曲輪や急斜面に群落が分布しています。5月上旬に紫斑白色の花をつけます。もともとは、敵が斜面を登る際にシヤガの葉で滑って攻めにくいようにするために植えたと考えられています。



フジ自生地

本沢川に面した急斜面にはフジの古木が多数みられます。5月頃に淡紫色又は白色の花を房状に垂れ下げて咲きます。



ヒガンバナ群落

南斜面に群落が分布しています。9月に朱赤色の花をつけます。葉は花のあとに出て越冬して初夏に枯れます。



アズマシャクナゲ大株

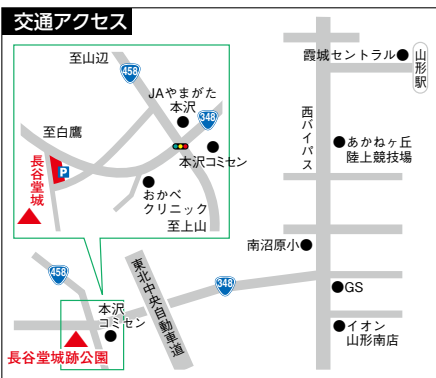
阿弥陀堂(慈眼庵)の境内に残るアズマシャクナゲの大株(樹高2.5m葉張2.3m)。花は5月上旬に咲きます。この辺では珍しい大株です。



貴重な動植物の数々

本公園の植生は、江戸時代の絵図によると、当時、樹木は生えていませんでした。今から50年ほど前の写真にも、八幡神社と長谷堂観音の境内林以外には、ほとんど樹木は写っていませんが、春日神社のシダレザクラ、阿弥陀堂(慈眼庵)のアズマシャクナゲ等は存在していたとみられます。その後、城山は振り返られることなく放置され、山は荒れてしまいました。

そこで地域が中心となって新しい里山「花の名所」にしようと、ここにサクラ等の花木を植栽し、自生するヒガンバナやシヤガなどの保護・育成を続けています。小規模ながら豊かな自然に恵まれた城山にはカモシカが出没し、ドングリやクルミの実をつける樹木の多い山中ではリスが駆け回っています。また、林内には食樹木エゾエノキが多いので国蝶オオムラサキが生息しているとみられています。



所在地：山形市大字長谷堂字内町994-2

問い合わせ先…山形市 公園緑地課
住所/〒990-8540 山形市旅籠町2-3-25 TEL/023-641-1212 (内線530)

令和7年3月発行

長谷堂城跡公園 散策マップ

慶長出羽合戦(出羽の関が原)決戦の地
直江兼統 vs 最上義光



直江兼統

最上義光

長谷堂合戦

『慶長出羽合戦』とも言われるこの戦いは、『北の関ヶ原』とも呼ばれ、東軍の最上義光と西軍の上杉家臣直江兼統が激戦を繰り広げました。直江兼統は二万の兵をもって最上領に侵攻し、菅沢山に本陣を置き、山形城への最終防衛線である長谷堂城に迫りました。城将志村伊豆守は、千の兵をもって奮戦し、上杉軍を食い止めました。関ヶ原での西軍敗戦の報を受けると、上杉軍は米沢へ撤退を開始し、これを最上義光が追撃します。最上軍の猛迫に上杉軍はよく持ちこたえ、撤退に成功します。この撤退戦があまりに見事であったため、最上義光、徳川家康が直江兼統を称賛したことが記録に残っています。

直江山城守兼統



左隻 直江山城守兼統 大将 最上義光公



難攻不落の長谷堂城

長谷堂城は標高約230m、麓からの高さ約85m、南北約670m、東西約400mの小規模な独立丘陵に作られています。主郭である頂上から城内各所への見通しがよく、主郭を頂点とした統一的な指揮命令系統を組織できる抜群の名城です。山腹には、曲輪や横矢掛り、切岸、土塁・堀などの防御施設が効果的に配置されており、巧妙に敵の侵入を防ぐ構造となっています。長谷堂合戦の後には、平地に御殿をつくったといわれ、統治のための城郭へと移行していったと考えられています。

長谷堂城主要年表

年号	城主	記事
永正11 (1514)	最上氏	伊達氏と最上氏の抗争(『伊達正統世次考』史料初出)。伊達氏に城を奪われる。
永正11 (1514) ~ 12 (1515)	小梁川氏 (伊達家臣)	
永正12 (1515) ~	最上氏	最上氏、伊達氏和睦し、再び最上氏の領有となる。
慶長5 (1600)	志村伊豆守	慶長出羽合戦(長谷堂合戦)
慶長6 (1601)	坂紀伊守	坂紀伊守が城主となる。城下の整備をすすめる。
元和8 (1622)	坂紀伊守	最上氏改易に伴い廃城。幕府の命により、上杉景勝が受け取り。

